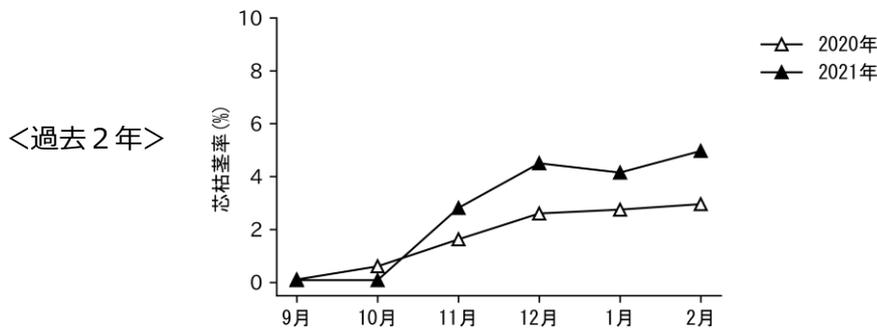
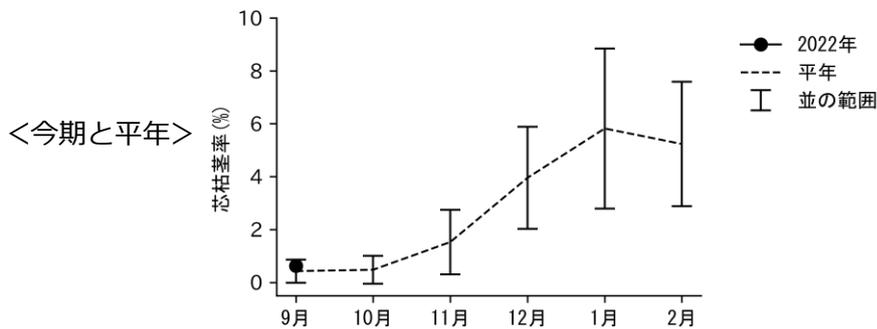


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、優先種はカンシャシンクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率31.2% (平年 : 35.3%)

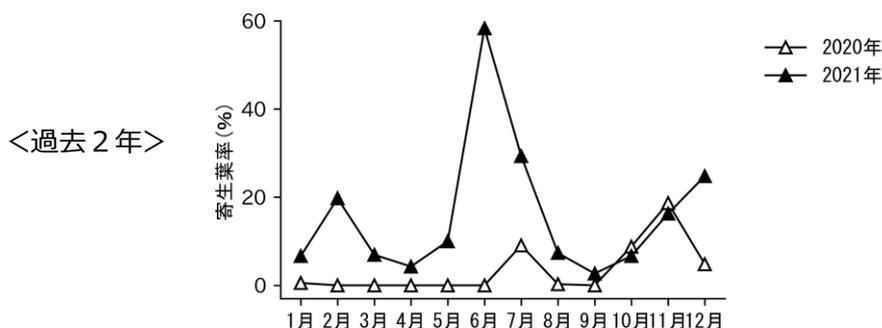
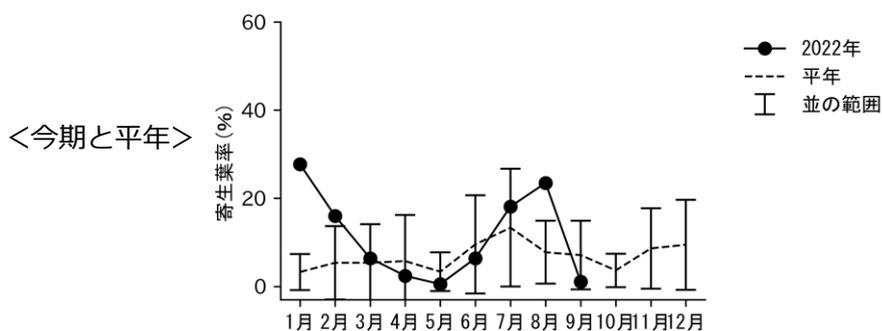
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↘	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：37.8%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

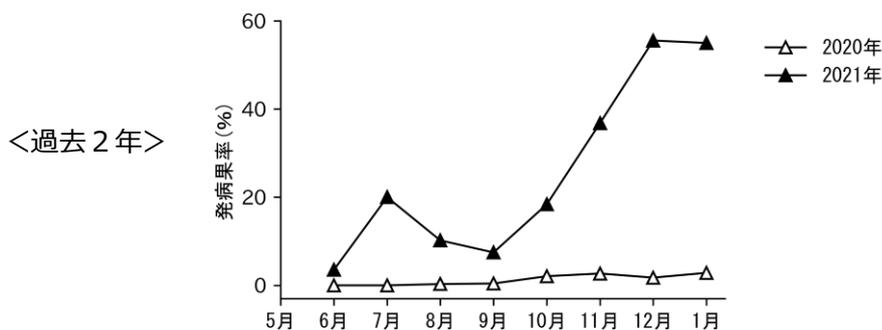
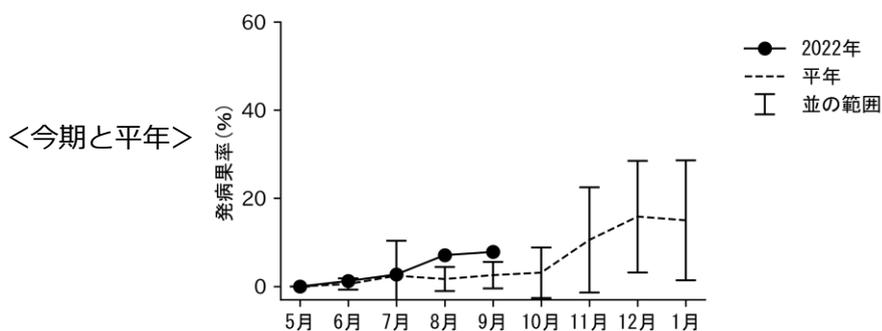


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)		地域	沖縄群島	
病害虫名	① 黒点病				
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報	9 月からの増減傾向	→			
	10 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 果実の発病度1.6 (平年3.2)
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 44.4%)

防除のポイント

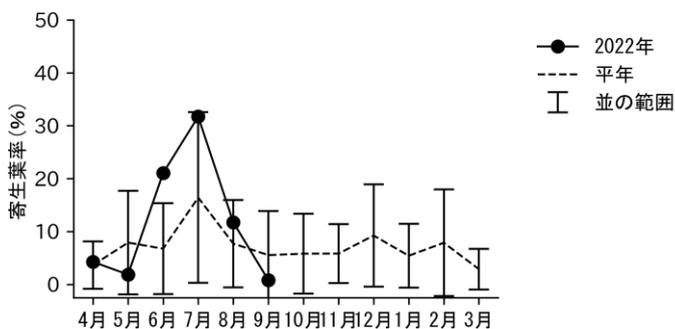
- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)		

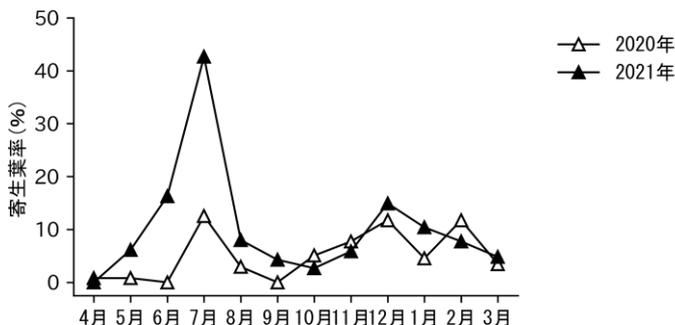
調査結果

寄生葉率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0% (平年：27.3%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

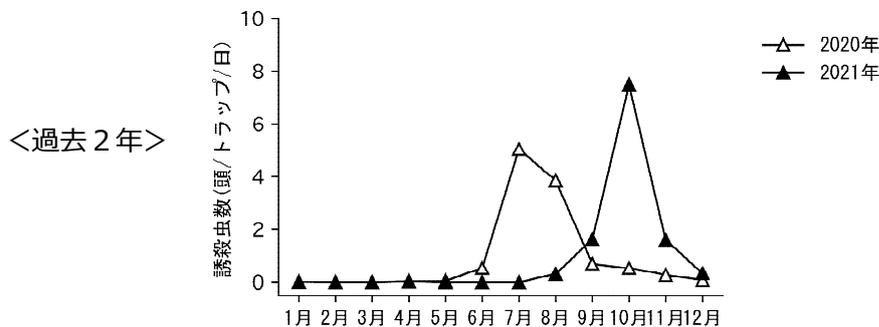
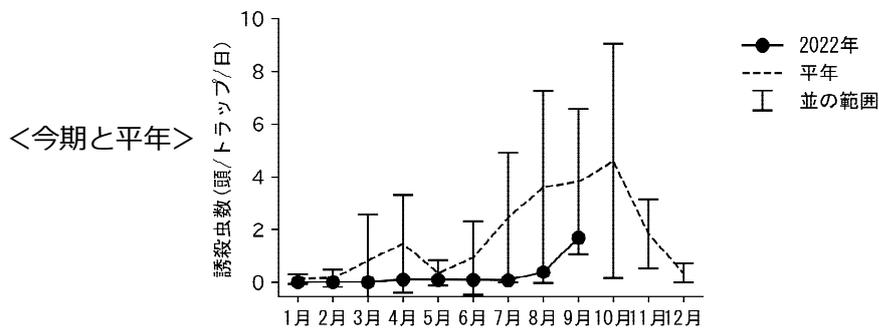


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 100%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

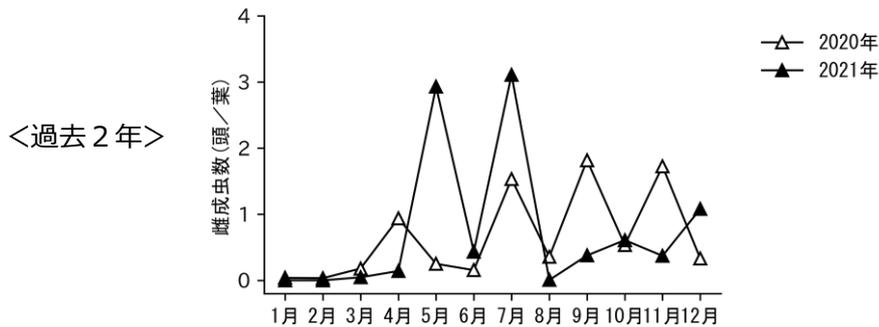
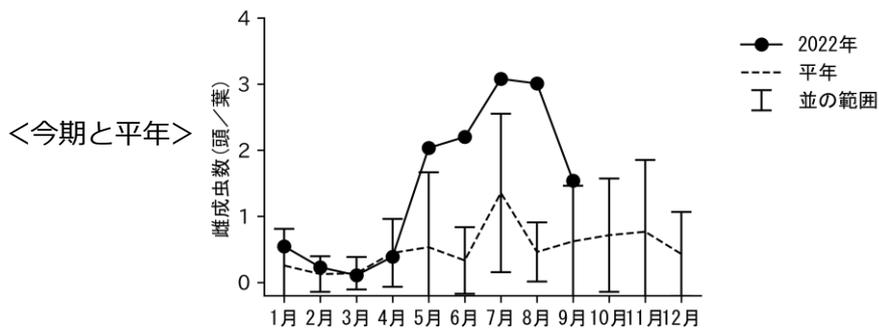


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	→	
	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率75.0% (平年：61.6%)

防除のポイント

- ・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生施設では早期発見・防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

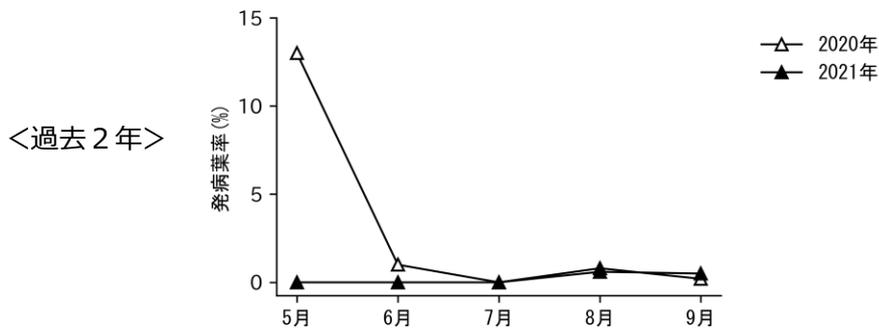
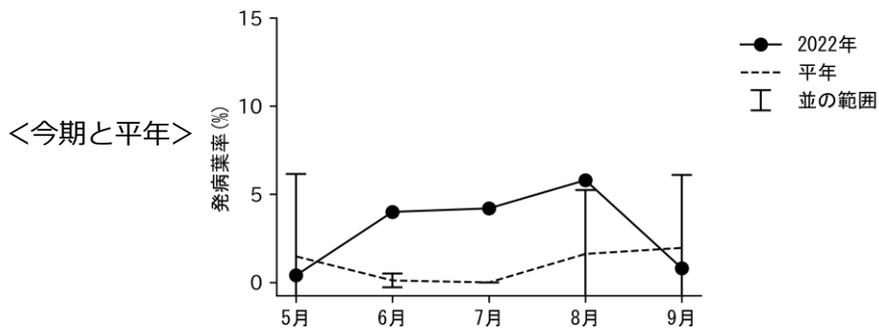


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予 報	9 月からの増減傾向	—	
		10 月の発生量（平年比）	—
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率20.0%（平年：29.5%）

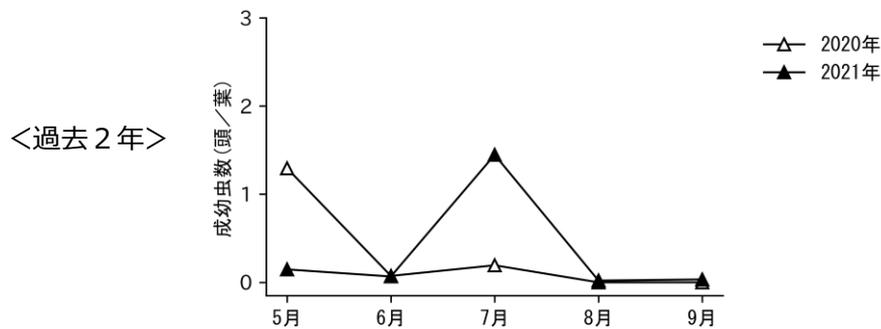
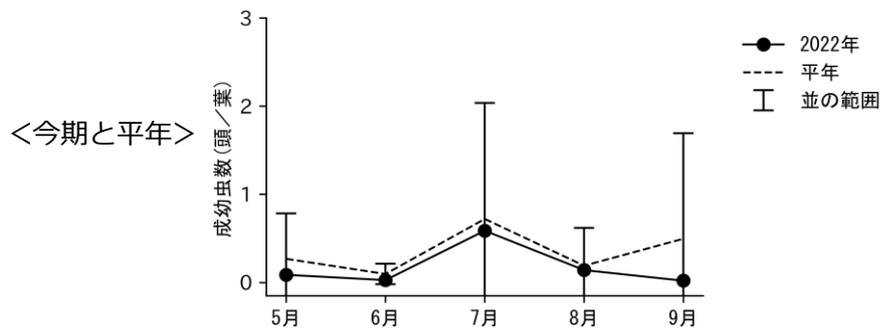
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 40.9%)

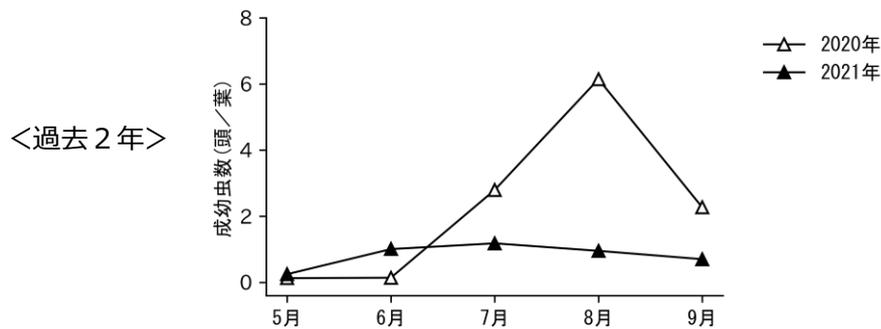
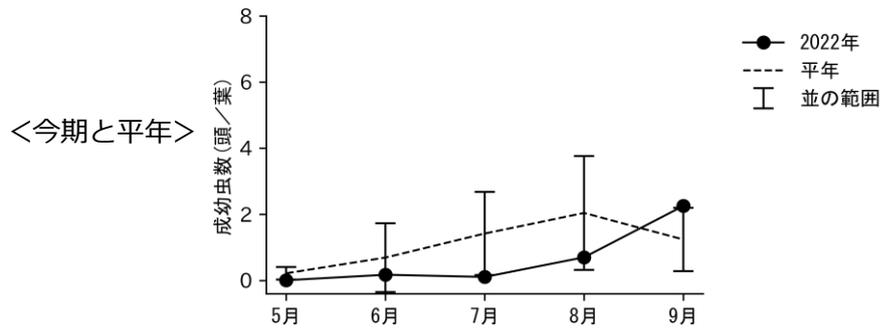
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 79.5%)

防除のポイント

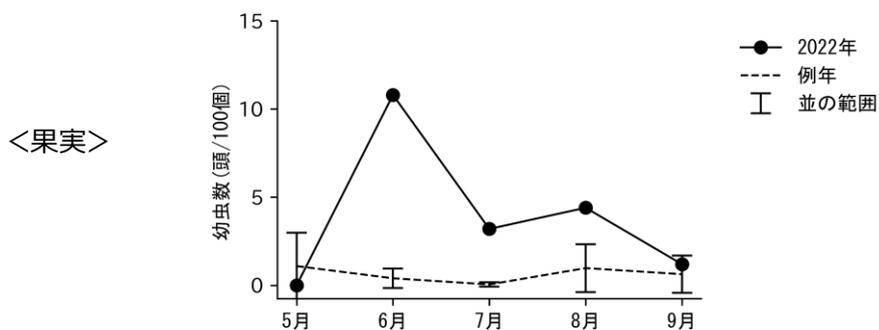
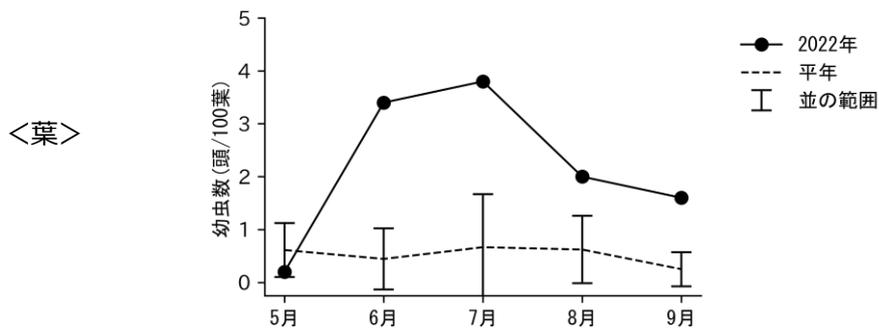
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	多	
予報	9 月からの増減傾向	—	
	10 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

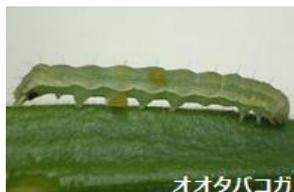
幼虫数の推移 (今期と平年)



- ・発生種 : ハスモンヨトウ、ワタアカキリバ
- ・発生ほ場率40.0% (平年 : 18.2%)

防除のポイント

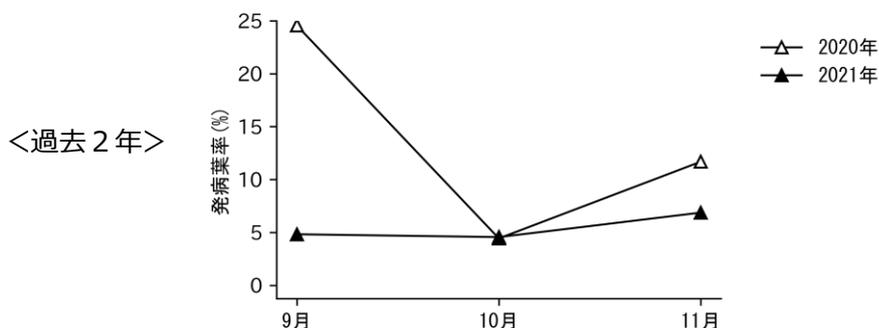
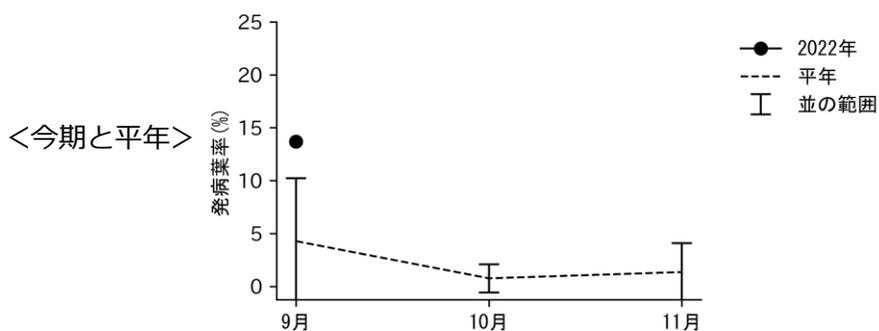
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫による食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予 報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率75.0%（平年：37.0%）

防除のポイント

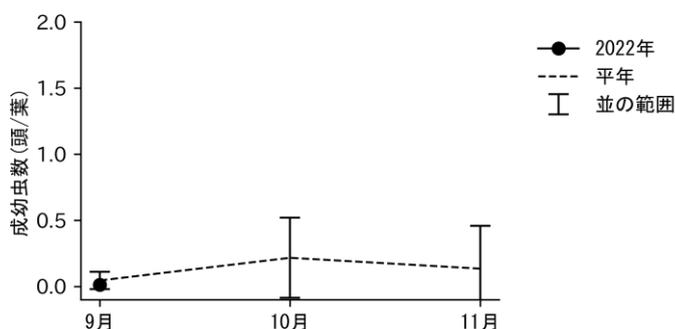
- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- ・発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クログハナアザミウマ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

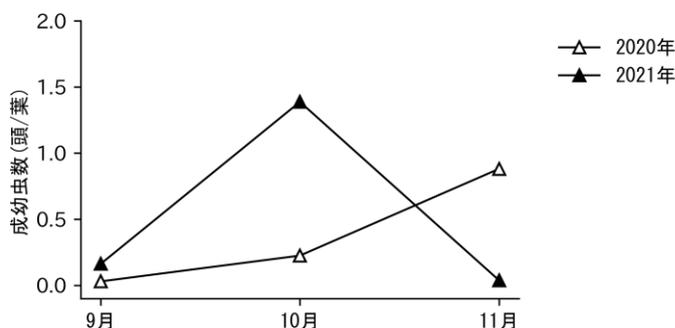
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率62.5% (平年 : 22.0%)

防除のポイント

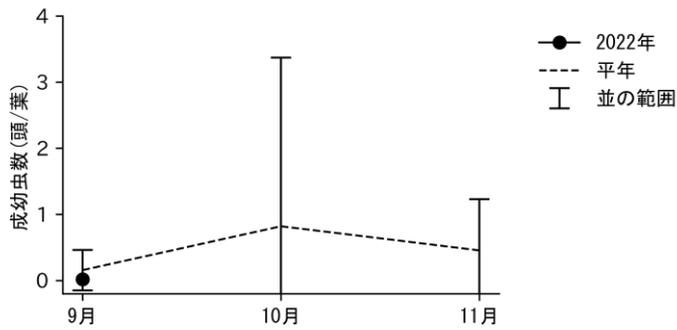
- ・ 苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
- ・ 定植時に粒剤を施用する。
- ・ 採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
- ・ 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・ 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・ 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

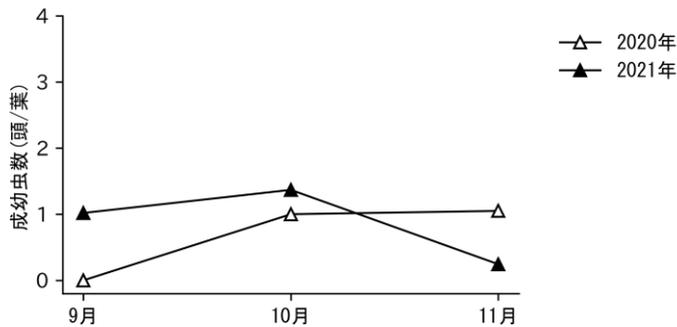
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率37.5%（平年：26.0%）

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



被害の様子